

終活の社会性

家族構成の 変化と終活



一般社団法人 終活協議会
想いコーポレーショングループ



- 01. 家族構成は大きく変わってきている
- 02. 「家族がいる＝安心」ではない時代
- 03. 家族構成によって終活のポイントは変わる
- 04. 家族構成の変化を前提に、終活を考える



01. 家族構成は大きく変わってきている

かつての日本では、

「結婚して子どもがいて、親と同居、もしくは近くに住んでいる」

という家族の形が一般的でした。

しかし現在は、

「未婚のまま高齢期を迎える人」

「子どもがいない夫婦」「子どもがいても遠方に住んでいるケース」

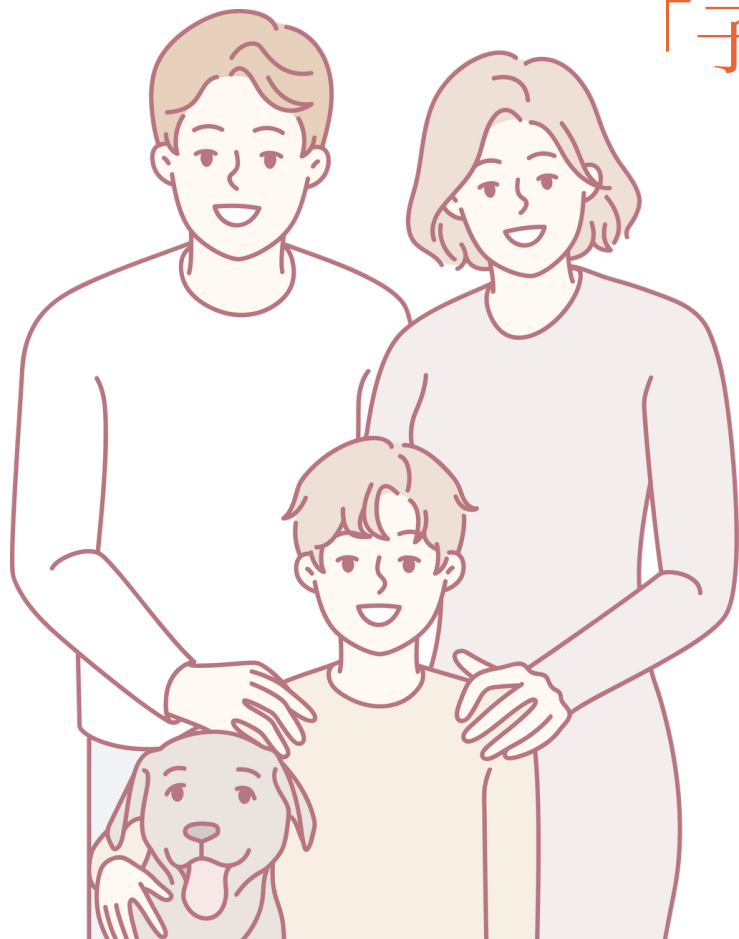
「離婚や再婚によって家族関係が複雑化している家庭」

など、家族の形は大きく多様化しています。

その結果、

「何かあったとき、誰が対応するのか分からない」

という状況が珍しくなくなってきました。



02. 「家族がいる＝安心」ではない時代

「家族がいるから大丈夫」

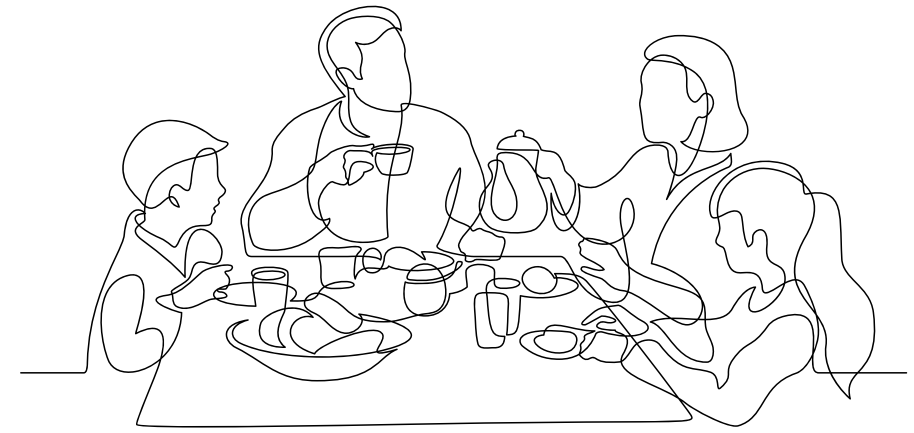
そう思っている、実際には次のような問題が起こっています。

「子どもに終活の話を切り出せない」

「家族関係が疎遠で、連絡が取りづらい」

「家族が忙しく、手続きや判断を任せられない」

「家族が本人の希望を知らない」



特に、延命治療・介護・葬儀・財産のことなどは、
家族が判断を迫られる場面が多く事前の話し合いがないと大きな負担になります。

終活は、「家族がいる人ほど必要な準備」と言えるのです。

03. 家族構成によって終活のポイントは変わる

終活は、家族構成によって考えるべき内容が異なります。

単身の方

→ 連絡先、身元保証、死後事務の整理が重要

夫婦のみの世帯

→ どちらかが先に亡くなった場合の備え

子どもがいる家庭

→ 子どもへの負担を減らす情報共有と意思表示

再婚・複雑な家族関係

→ 相続や意思決定のトラブル防止

「一般的な終活」ではなく、

自分の家族構成に合った終活を考えることが大切です。



04. 家族構成の変化を前提に、終活を考える

家族の形が変わった今、

「昔ながらの考え方」のままでは対応できない場面が増えています。

だからこそ、「自分の家族構成を正しく理解する」

「家族に任せきりにしない」「早い段階から話し合う」

これが、**これからの終活に求められる姿勢**です。

終活は、

家族を思う行動であり、未来への準備。

今の家族構成だからこそ必要な終活を、少しずつ始めていきましょう。



Thank you!

ありがとうございました！



全国に終活の輪を広げる
社会貢献活動を目指しています

